

一日研 報告

- 1 期 日 7月5日
- 2 場 所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O, A R, A K, Y O, A S, C H
- 4 内 容

『風切るつばさ』映像・記録 (YO)

『世界でいちばんやかましい音』記録・映像 (AK)

戸田実践授業記録検討『ぼくのいぬころ』(CH)

授業映像『走れ!』(AS)

授業映像『世界でいちばんやかましい音』(AR)

YO先生の授業記録の検討から終始「イメージ」がキーワードになっていたと思います。「子どもについていく」ということ。子どもが納得するのは「イメージ」。言葉について来れない子は「イメージ」がないと、ついてこれない。子どもの顔がはつきりしてくるのは「イメージ」。ただ、これが難しい。今日やってみても、イメージを語らせようとする子どもは苦しそうでした。それは、無理やり語らせようとしているからではないでしょうか。まずは、語れる子の話をしっかりと受容する。当たり前のことですが、この原点に立ち返る必要があるようにも思いました。

今日のまとめ

「①子どもから問題を出す。→②子どもにイメージを語ってもらう。→イメージの違いをはつきりさせる。→④対立をつくる。」が目指す対立問題の作り方。(AR)